

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3074885号

(U3074885)

(45) 発行日 平成13年1月26日 (2001. 1. 26)

(24) 登録日 平成12年11月1日 (2000. 11. 1)

(51) Int.Cl.<sup>7</sup>

識別記号

F I

A 6 1 J 1/05

A 6 1 J 1/00

3 5 1 A

評価書の請求 未請求 請求項の数 1 O L (全 7 頁)

(21) 出願番号 実願2000-5022 (U2000-5022)

(22) 出願日 平成12年7月17日 (2000. 7. 17)

(73) 実用新案権者 000149435

株式会社大塚製薬工場

徳島県鳴門市撫養町立岩字芥原115

(72) 考案者 井上 富士夫

徳島県鳴門市大津町大代240番地の41

(74) 代理人 100065215

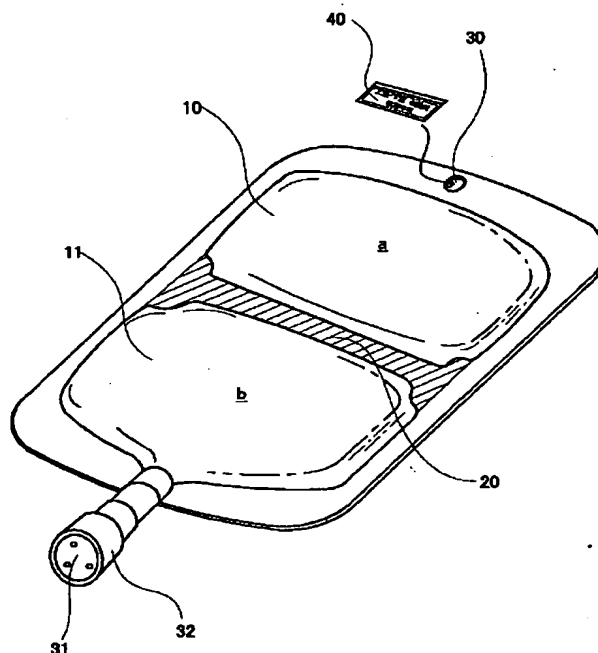
弁理士 三枝 英二 (外8名)

(54) 【考案の名称】 開封確認用シールを備えた医療用複室容器

(57) 【要約】

【課題】 確実に弱シール部を剥離させ複数の収納部に収納されている薬剤を混合するための注意喚起効果を奏する医療用複室容器を提供する。

【解決手段】 複数の収納部10, 11と、該収納部を仕切っていて、外部から圧力を加えることにより剥離し得る弱シール部20と、容器本体を吊り下げるための掛吊穴30とを備えた医療用複室容器1であって、前記掛吊穴30を塞ぐように貼付される剥離可能な開封確認用シール40を備え、前記複数の収納部の少なくとも1つに液状薬剤が収納され、前記開封確認用シール40は薬剤の混合を促す表示部50を有することを特徴とする医療用複室容器。



1

【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】 複数の収納部と、該収納部を仕切っていて、外部から圧力を加えることにより剥離し得る弱シール部と、容器本体を吊り下げるための掛吊穴とを備えた医療用複室容器であって、前記掛吊穴を塞ぐように貼付される剥離可能な開封確認用シールを備え、前記複数の収納部の少なくとも1つに液状薬剤が収納され、前記開封確認用シールは薬剤の混合を促す表示部を有することを特徴とする医療用複室容器。

【図面の簡単な説明】

【図1】 従来の医療用複室容器の一例を示す斜視図である。

【図2】 図1の医療用複室容器の平面図である。

2

\* 【図3】 図2のX-X線に沿う断面図である。

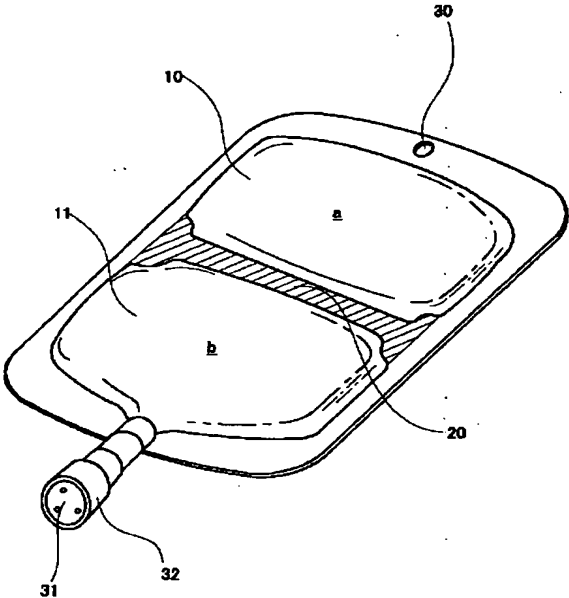
【図4】 本考案に係る医療用複室容器の一実施形態を示す斜視図である。

【図5】 図4の医療用複室容器に添付される開封確認用シールの平面図である。

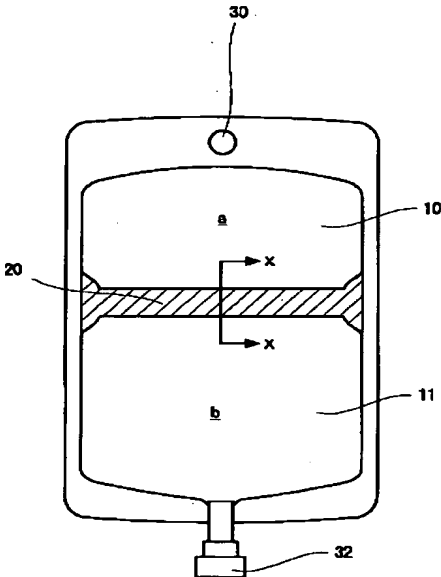
【符号の説明】

1	医療用複室容器	10, 11	収納部
20	弱シール部		
30	掛吊穴		
10	31	32	薬液取り出し口
	40	50	表示部

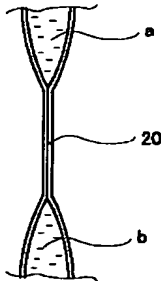
【図1】



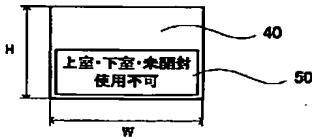
【図2】



【図3】



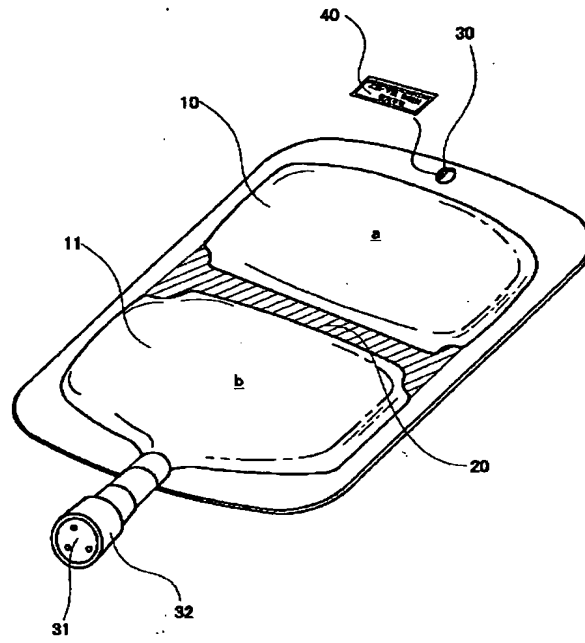
【図5】



(3)

実登3074885

【図4】



**【考案の詳細な説明】****【0001】****【考案の属する技術分野】**

本考案は開封確認用シールを備えた医療用複室容器に関する。

**【0002】****【従来技術】**

静脈注射により患者に投与される薬剤の中には、予め配合すると経時的変化を起こすような不安定な薬剤がある。経時的変化としては、例えばアミノ酸輸液とブドウ糖輸液を配合して保存しておく、褐変するいわゆるメイラード反応が挙げられる。

**【0003】**

このような薬剤には、配合前の成分を個別に収納する複室容器が用いられることが多い。この複室容器は、個別に収納する複数の収納部と、収納部を仕切っていて、外部から圧力を加えることにより剥離し得る弱シール部と、容器本体を吊り下げるための掛吊穴とを備えたものである。

**【0004】**

図1はそのような従来医療用複室容器の一例を示す斜視図であり、図2は図1の医療用複室容器の平面図であり、図3は図2のX—X線に沿う断面図である。

**【0005】**

医療用複室容器の各収納部10、11には、予め混合或いは溶解しておく不安定な各種薬剤a、bがそれぞれ収納され、これらの薬剤a、bは弱シール部20により隔離された状態で使用時まで安全且つ確実に保存される。使用時には収納部10或いは11を押圧すると弱シール部20が剥離し、両収納部10、11内は連通状態となり、両薬剤a、bを速やかに混合或いは溶解できる。

**【0006】**

更に医療用複室容器は、一端に掛吊穴30を備え、他端にゴム栓31を有する薬液取出し口32を備える。患者に混合された薬剤を投与する際には、容器を掛吊穴30で支柱等に吊り下げた後、容器の一端に設けられたゴム栓31に刺栓針を刺入しカ

テーテルを経て、その先端の注射針から患者に投与する。

#### 【0007】

このように複質容器は、混合或いは溶解すると不安定なものを複数の収納部に区切って保存するためのものであり、混合或いは溶解を使用直前まで防止するためのものである。そして、簡単な操作で薬剤を混合して患者に投与することができ、広く医療施設において用いられている。

#### 【0008】

しかし、弱シール部を剥離しなくても、ゴム栓31に刺栓針を刺入し、薬液取出し口32から薬液を取り出すことが可能である。従って、薬剤が混合されず、患者に対する安全性を保証できない薬剤を患者に投与してしまうという危険性がある。

#### 【0009】

##### 【考案が解決しようとする課題】

本考案は、前記従来技術の問題点を解消すべく、確実に弱シール部を剥離させ複数の収納部に収納されている薬剤を混合するための注意喚起効果を奏する医療用複室容器を提供することを課題とする。

#### 【0010】

##### 【課題を解決するための手段】

本考案の前記課題は、複数の収納部と、該収納部を仕切っていて、外部から圧力を加えることにより剥離し得る弱シール部と、容器本体を吊り下げのための掛吊穴とを備えた医療用複室容器であって、前記掛吊穴を塞ぐように貼付される剥離可能な開封確認用シールを備え、前記複数の収納部の少なくとも1つに液状薬剤が収納され、前記開封確認用シールは薬剤の混合を促す表示部を有することを特徴とする医療用複室容器を提供することにより解決される。

#### 【0011】

##### 【考案の実施の形態】

以下、添付する図面を参照しつつ本考案の一実施形態について説明する。図4は、本考案に係る医療用複室容器の一実施形態を示す斜視図であり、図5は図4の医療用複室容器に添付される開封確認用シールの平面図である。

**【0012】**

図4に示すように、医療用複室容器1は、複数の収納部10、11と、該収納部を仕切っていて、外部から圧力を加えることにより剥離し得る弱シール部20と、容器本体を吊り下げるための掛吊穴30と、薬液取出し口32とを備える。

**【0013】**

収納部10、11には少なくとも一方に液状薬剤が収納され、他方の収納部の薬剤との混合・溶解後に、薬液取出し口32に備えられたゴム栓31に刺栓針を刺入しカテーテルを経て、その先端の注射針から混合された薬剤を患者に投与する。

**【0014】**

更に、医療用複室容器1は、掛吊穴30を塞ぐように貼付された剥離可能な開封確認用シール40を備える。開封確認用シール40は、図5に示すように、薬剤の混合を促す表示部50を有する。表示部50には、図5に示すような「上室・下室 未開封 使用不可」或いは「未混合 使用不可」等、種々の文字、或いは図形を付することができる。

**【0015】**

開封確認用シール40の材質は、可撓性を備えるものが望ましく、紙、合成樹脂（例えばPET、ナイロン等）、アルミ箔等の金属箔、エラストマー類、ゴム等或いはこれらの合成材を用いることができる。

**【0016】**

開封確認用シール40の大きさは、掛吊穴30を塞ぐ大きさであればよい。好ましくは開封確認用シールの大きさは、ユーザが表示部50を確実に認識し得るように、幅Wが約10mm～約50mm、高さHが約5mm～約30mmとされる。

**【0017】**

開封確認用シール40を掛吊穴30に剥離可能に貼付するための貼付手段は、溶着接着の他、ステープル、面ファスナ等の物理的固定手段を用いることが可能である。特に、開封確認用シール40を再接着可能な粘着面で貼付した場合には、開封確認用シール40を剥離した後、カルテ等の診察記録体に開封確認用シール40を貼付することができる。これにより、弱シール部20の剥離作業を行ったかどうかを施術後に確認することができる。

**【0018】**

また、開封確認用シール40は、掛吊穴30の片面に貼付される。或いは、開封確認用シール40を、掛吊穴30の両面に貼付することも可能である。

**【0019】**

本考案に係る医療用複室容器1は、開封確認用シール40が掛吊穴30を塞ぐように貼付されているため、支柱等を掛吊穴に通す際に、ユーザに開封確認用シール40を目視させることができ、混合されていない薬剤を患者に投与することを未然に防ぐことができる。

**【0020】**

ユーザが開封確認用シール40を目視せずに使用しようとした場合においても、ユーザは掛吊穴に支柱等を通そうとする際に、開封確認用シール40を容器本体より剥離しなければならない。この際、ユーザは開封確認用シール40の表示部50を目視し、正しい使用方法を認識することとなる。

**【0021】**

上述のように、本考案による医療用複室容器は、開封確認用シールを備えることにより、ユーザに薬剤の混合を促すことができ、未混合の薬剤を患者に投与することを確実に防止する。

**【0022】****【考案の効果】**

本考案によれば、開封確認用シールを掛吊穴を塞ぐように貼付することにより、複室容器中の薬剤を確実に溶解乃至混合するための注意喚起効果を奏する。